

サーモスタット付バス水栓(定量止水)

施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客様に引き渡すときは取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客様まで保管頂くように依頼してください。

△ 注意

湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドすることがあります。	
水栓の上に物を落としたり、衝撃を与えないでください。 ※水栓が破損し、故障や水漏れの原因になります。	
給湯器の給湯温度設定は85°C以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、漏水のために家財に損害を与える恐れがあります。	
修理技術者以外の人は絶対に分解したり、修理・改造は行わないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
給水圧力は給湯圧力より必ず高くしてください。 ※給湯圧力の方が高い場合正常な温度調節ができず、ヤケドをする恐れがあります。	

本製品の仕様と使用条件

通水温度上限	80°C	使用可能水質	上水
使用環境温度	0~40°C (但し、内部の水を凍結させないでください)		
給水(給湯)接続	R 1/2	圧力条件	給水圧力≥給湯圧力

ガス給湯器(比例制御式:16号相当)と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A + 0.10 MPa {1.0kgf/cm ² } (A=ガス給湯器の最低作動圧力)
最高圧力	0.59 MPa {6.0kgf/cm ² }

測定条件は次の通りです。

- ・定量止水ハンドルは全開(ONの位置)。
- ・給水温度5°C、吐出温度42°C (ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬期を想定)
- ・給水圧力はガス給湯器直前における流動時の静水圧です。
- ・ガス給湯器の設定温度は最高温です。

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.05 MPa {0.5kgf/cm ² }
最高圧力	0.59 MPa {6.0kgf/cm ² }

※給湯圧力が温水器の減圧弁によって0.08MPa以下に設定されている場合があります。

この場合は別売の加圧ポンプにより給湯圧力を最低必要圧力まで上げていただく必要があります。(加圧ポンプ:当社FH-810-50(60)等)

※給湯圧力は水栓直前における流動時の静水圧です。

その他の条件

- ・給水圧力が0.59MPa{6.0kgf/cm²}を超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.39MPa{2.0~4.0kgf/cm²}程度)に減圧してください。
- ・給湯に蒸気は使用できません。
- ・給湯温度は使用する最高温度より約10°C高く設定してください。
- ・ガス給湯器を使用の場合、最低作動流量(4L/分)を確保してご使用ください。
4L/分を下回ると自動止水しなかったり、給湯器が着火しない場合がありますので、次の点に注意してください。
 - ・16号以上のガス給湯器と組み合わせる。
 - ・能力切替付の場合は4L/分以上の流量が確保できるよう能力調整する。
 ※4L/分は目安として普通の洗面器を30秒程度で一杯にできる流量です。
- ・流量は30L/分以下でご使用ください。
※30L/分を超えると計量精度を保証できません。

施工前のご注意

- 施工途中、施工後の漏水確認や温度調節、ストレーナの清掃を行うために通水が必要です。水道工事と浴槽取付工事は、十分に工程を打ち合わせのうえ行ってください。

- ・給水は上水道に接続してください。
※温泉などの異物を多く含む水には使用できません。
- ・給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- ・給湯配管はできるだけ短くし、必ず保温材を巻いてください。
- ・商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
※工具をかける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- ・開梱・取付けの際には商品の表面に傷を付けないように十分注意してください。
- ・必ず配管中の異物を完全に洗い流してください。

工事店様へのお願い

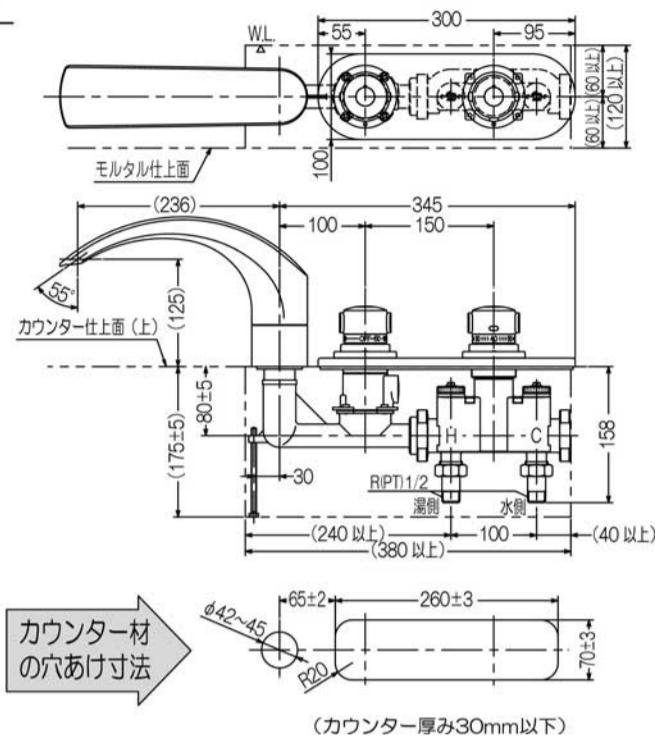
貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客様に必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客様に必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客様にお渡しください。

BF-X195TL
BF-X195TR

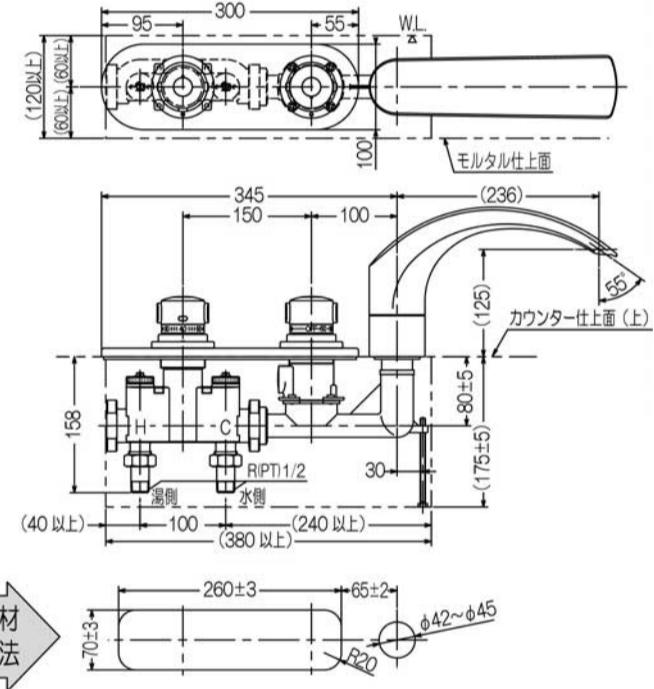
施工完了図

BF-X195TL



(カウンター厚み30mm以下)

BF-X195TR



(カウンター厚み30mm以下)

※()内寸法は、取付け施工に必要なスペースの寸法です。

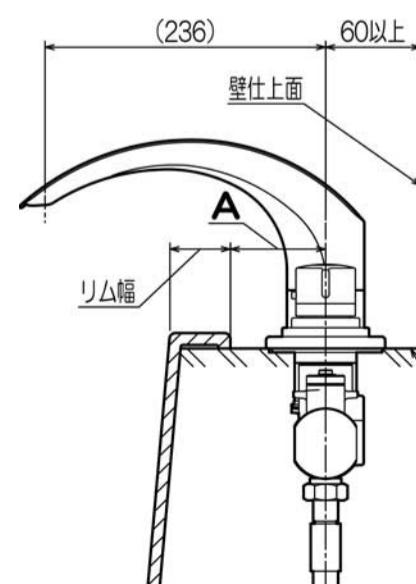
施工方法

1

取付位置の決定

A寸法は浴槽のリム幅によって異なりますが、最小でも60mm以上は確保してください。

また、リム幅+A寸法が200mm以下になるように設定してください。



注意

必ず左図の寸法の範囲内で施工してください。

芯出しが不十分ですと水栓の取付けや浴槽内への吐出の障害となる恐れがあります。

受付時間 平日 9:00~19:00
土日・祝日 10:00~18:00
(年末年始、夏期休暇は除く)

※ナビダイヤルは、PHS・IP電話などご利用できません。TEL 0562-31-0793をご利用下さい。

②

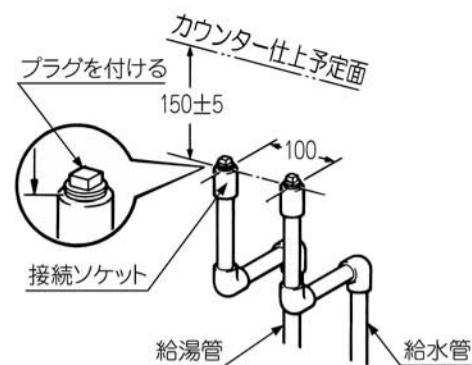
給水・給湯配管

1. 給水・給湯配管の取付け

接続ソケット上端とカウンター仕上予定面までの寸法が $150\pm 5\text{mm}$ になるように施工します。

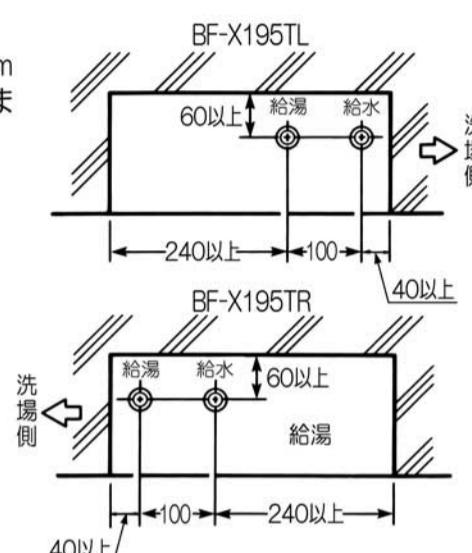
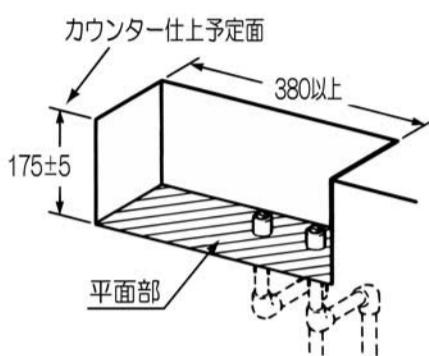
注意

接続ソケットにユニオンを取付けるまではプラグを付けて、管内にモルタル等が入らないように注意してください。



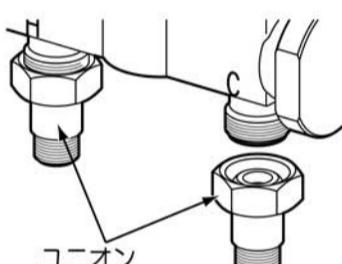
2. 水栓取付スペースの確保

カウンター仕上予定面より $175\pm 5\text{mm}$ の位置に水栓取付用の平面部を設けます。



3. ユニオンの取付け

接続ソケットのプラグを取り外し、同梱のユニオンをカウンター仕上予定面までの寸法が $115\pm 5\text{mm}$ になるように取付けます。



注意

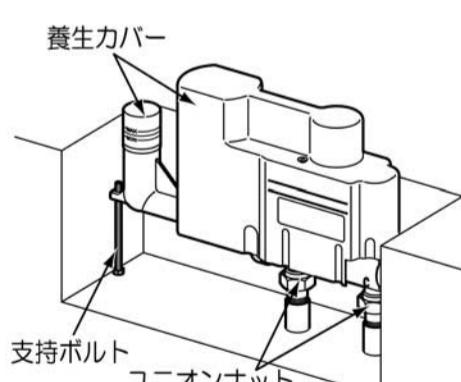
- ・湯側、水側ユニオンの取付高さが同一レベルになるようにしてください。
- ・必ずカウンター仕上材の厚みを見越して位置出しをしてください。

③

水栓本体の取付けとカウンター仕上げ

1. 水栓本体の固定

ユニオンナットで水栓を給水・給湯配管に接続し、支持ボルトを利用して水平になるように調節します。

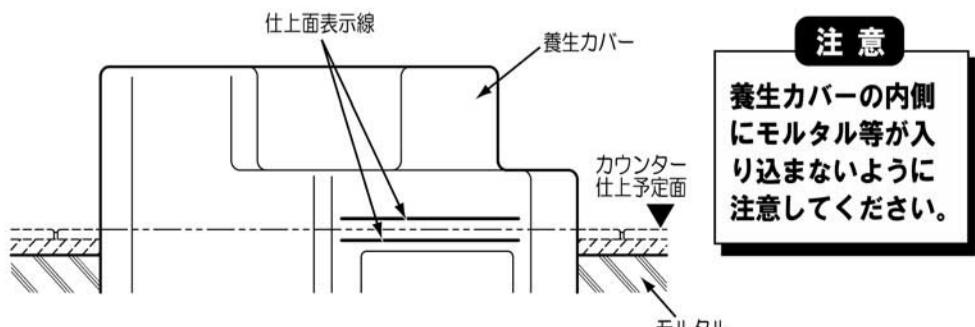


2. 漏水の有無の確認

埋込配管部に通水して、水漏れのないことを確認します。

3. 埋戻し

養生カバーは付けたまま、養生カバーの「仕上面表示線」範囲内にカウンター仕上予定面が収るように埋戻しをします。



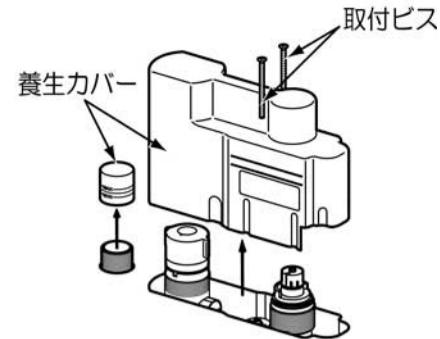
④

養生カバーの取外し

取付ビスを外し、養生カバーを外します。

注意

外れにくい場合は少しゆるめながら外してください。

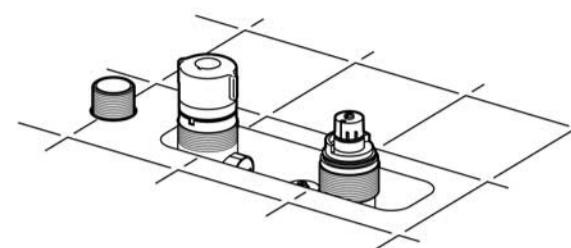


5. カウンター仕上げ

カウンター仕上げをします。

ポイント

カウンターの穴あけ寸法は「施工完了図」に記載しています。



④

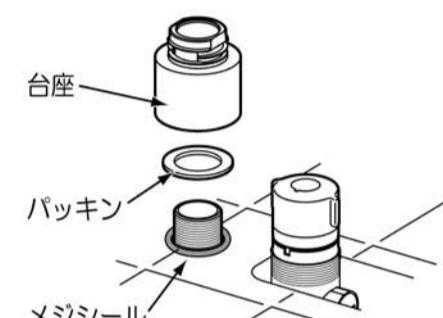
吐水口の取付け

1. 台座の取付け

目地のくぼみから水が入り込まないようにメジシールを塗布してから、台座を取付けます。

注意

はみ出したメジシールはよくふきとってください。



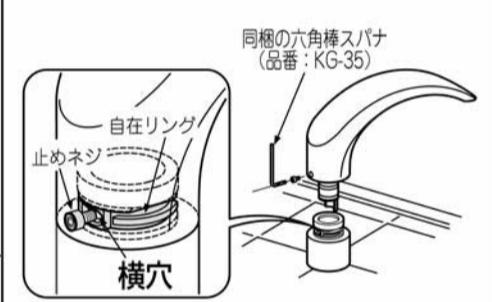
2. 吐水口の取付け

台座にスリップワッシャーと吐水口をはめ込み、止めねじで台座に固定します。



ポイント

同梱の六角棒スパナ
(品番: KG-35)



止めねじ取付けの際はネジが自在リングの横穴に入るよう位置を合わせてください。

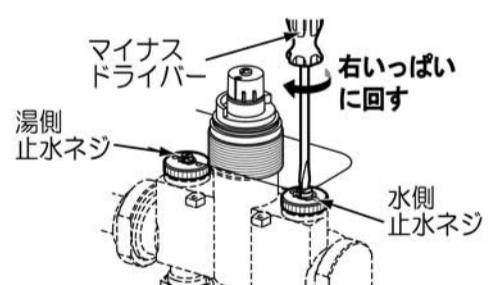
⑤

ストレーナの掃除

ストレーナーが詰まると流量が少くなり、十分な機能が発揮されません。必ず掃除してください。

1. 止水栓を閉じる

湯側・水側の止水ねじを右(時計回り)いっぱいに回し、止水栓を閉じます。



確認

以下の手順で水が出ないことを確認します。

1



注意

養生カバーの内側にモルタル等が入り込まないように注意してください。

2



定量止水ハンドルを「ON」が正面に向くように回して圧抜きをする。

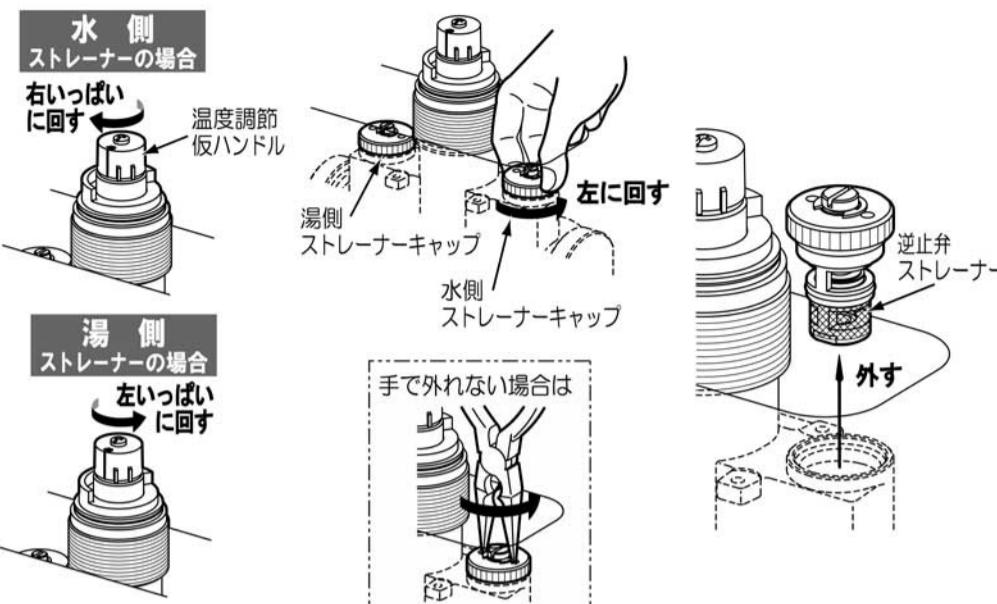
3



温度調節ハンドルを左右いっぱいに回して、水が出ないことを確認する。

2. 逆止弁ストレーナーの清掃

①温度調節仮ハンドルを右(時計回り)いっぱいに回し、水側(右側)のストレーナーキャップを左に回して外します。

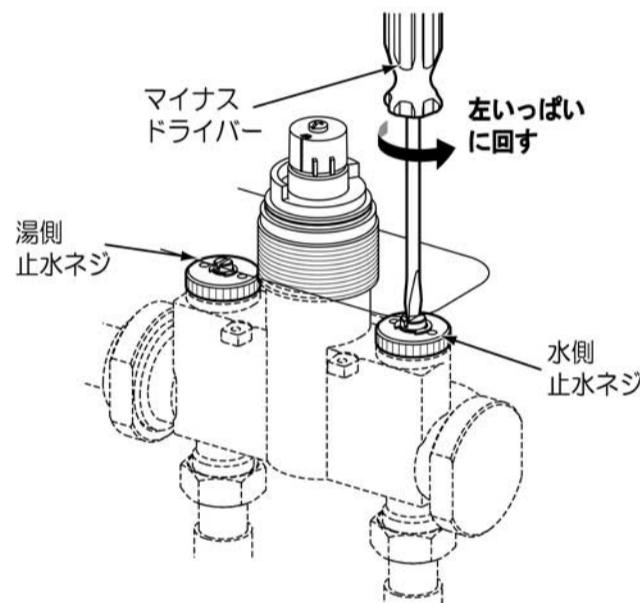


②ストレーナーに付いたゴミを水で洗い流した後、元の位置に取付けます。

③温度調節仮ハンドルを左(反時計回り)いっぱいに回し、湯側(左側)のストレーナーも同様に掃除します。

3. 止水栓を開ける

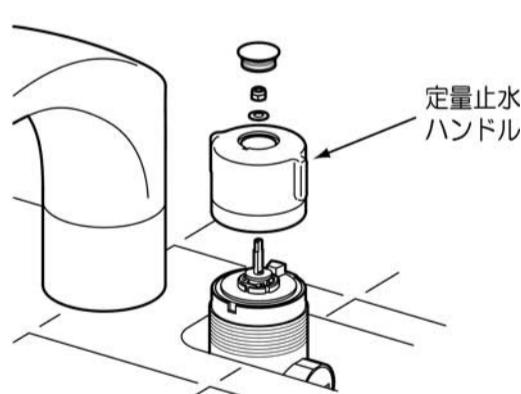
湯側・水側の止水ネジを左(反時計回り)いっぱいに回し、止水栓を開きます。



6. プレートの取付け

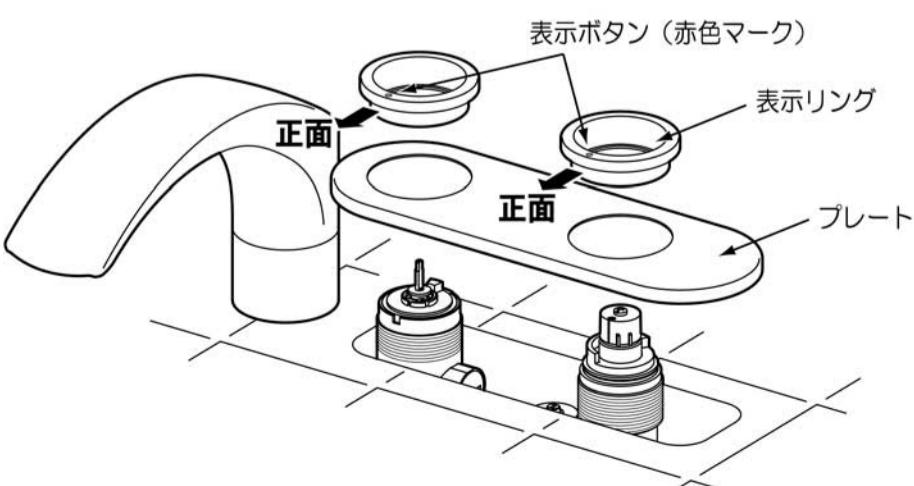
1. 定量止水ハンドルの取外し

あらかじめ取付けてある定量止水ハンドルを外します。



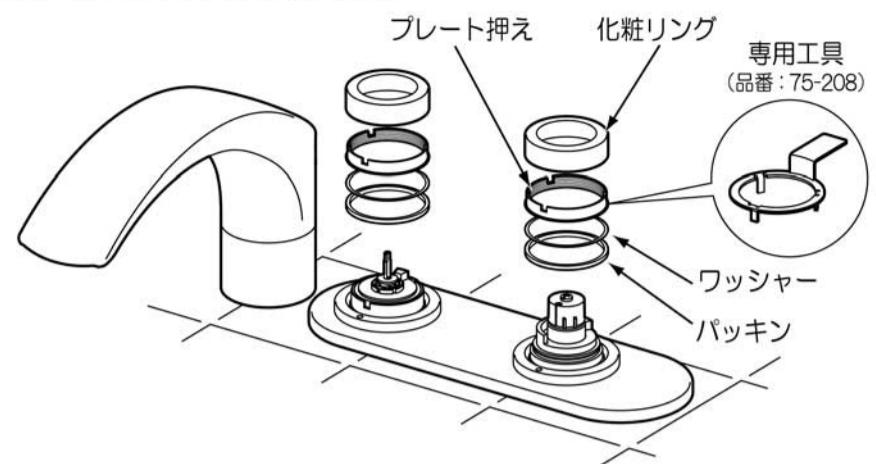
2. プレートの取付け

プレートを水栓に合わせて取付け、表示リング裏面の保護紙をはがし、表示ボタン(赤色マーク)が正面に向くようにプレートに貼り付けます。



3. プレート押え・化粧リングの取付け

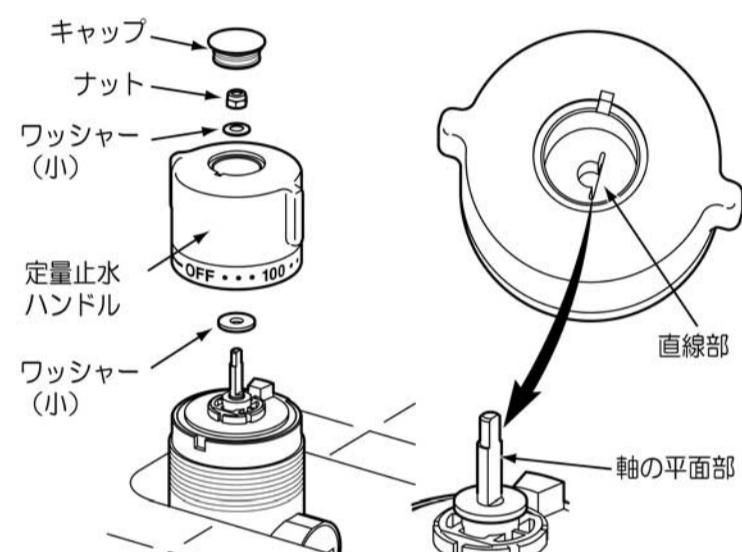
パッキン、ワッシャーを付けて、同梱の専用工具でプレート押えを締め付け、化粧リングを取付けます。



7. ハンドルの取付け

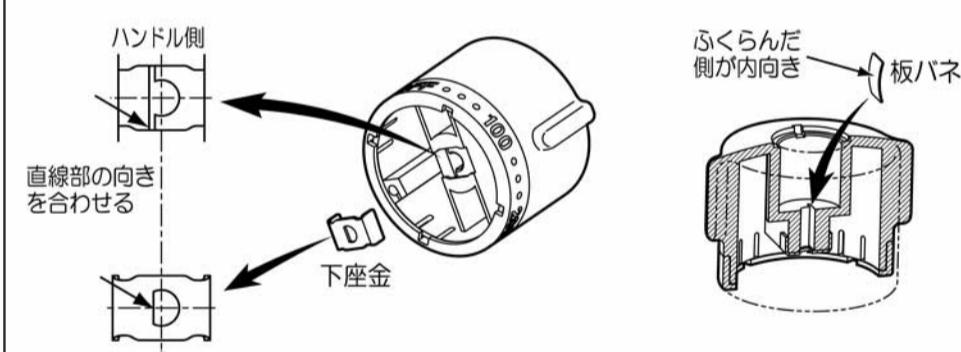
1. 定量止水ハンドルの取付け

ハンドル側の穴の直線部と軸の平面部が合うように向きに注意して、定量止水ハンドルを取付けます。



注 意

下座金や板バネは通常ハンドル側に組み付けてありますが、ハンドルをいったん外す際に抜け落ちる場合があります。下図に示した向きに注意して正しく組み付けてください。

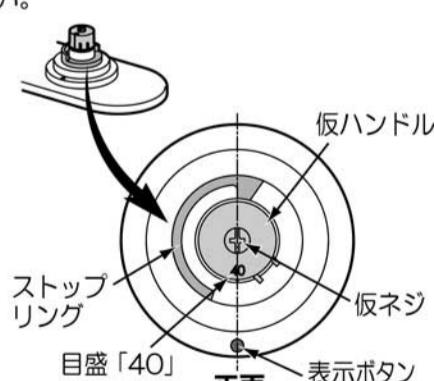


2. 温度調節ハンドルの取付け

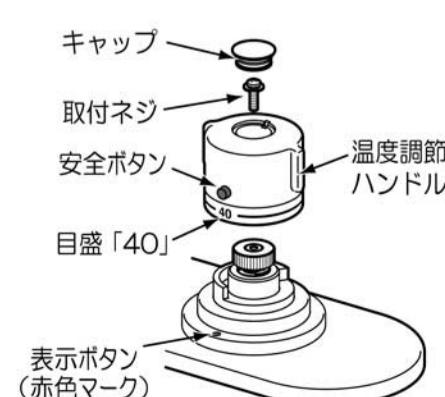
あらかじめ水栓に付いているハンドルは出荷調節時の仮ハンドルです。次の要領で正規のハンドルに付け替えてください。

①ストップリングが右図の位置にあることを確認します。

②仮ハンドルを上面の目盛「40」が表示ボタン(赤色マーク)と合う位置まで回し、位置がズレないよう注意しながら仮ネジと仮ハンドルを外します。



③温度調節ハンドルの目盛「40」(=安全ボタン位置)が表示ボタン(赤色マーク)に合うように取付けます。



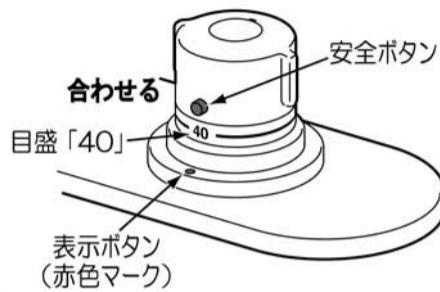
施工後の調節

1 吐出温度確認

温度調節ハンドル（出荷時は仮ハンドル）は工場で設定していますが、使用条件（給水・給湯圧力、給湯温度）が異なると、表示通りの温度が出ないことがあります。吐出温度が表示通りになっているか、以下の要領で確認してください。

1. 目盛を合わせる

温度調節ハンドルの目盛「40」（＝安全ボタン位置）が表示ボタン（赤色マーク）に合わせます。

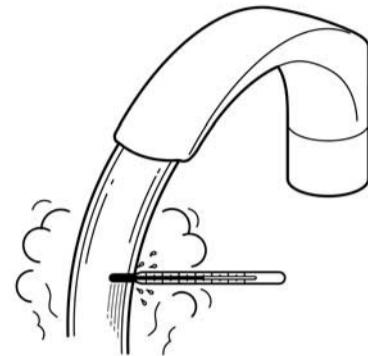


吐出温度が適温（約40°C）である ➔ そのままお使いいただけます。

吐出温度が適温からズレている ➔ 次項の「温度調節ハンドルの設定」を参照し、設定し直してください。

2. 吐出温度の確認

吐出温度を確認します。



2 温度調節ハンドルの設定

1. 吐出温度を約40°Cに合わせる

目盛「40」に関係なく吐出温度が約40°Cになるように温度調節ハンドルを回して調節します。

注意

温度調節ハンドルを湯側に回すと目盛「40」付近で一度止まります。これより高温側に回したいときは安全ボタンを押しながら回してください。



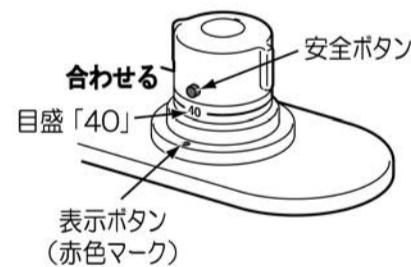
2. 温度調節ハンドルを外す

吐出温度が約40°Cになったところで止水し、ハンドルが回らないよう注意して外します。



3. 温度調節ハンドルを付け直す

温度調節ハンドルの目盛「40」（＝安全ボタン位置）が表示ボタン（赤色マーク）に合うように取付けます。

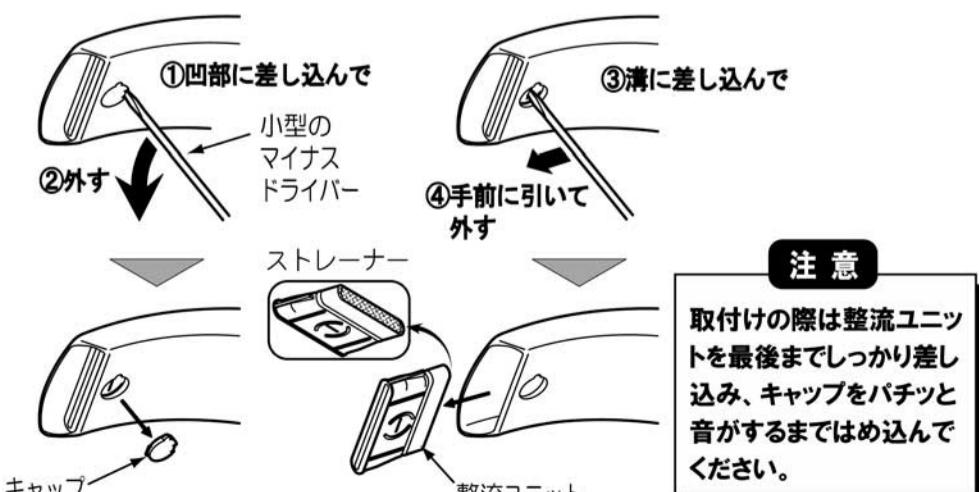


注意

取付け後に約40°Cの湯が出ることを確認してください。

3 吐水口ストレーナーの清掃

以下の手順で吐水口先端の整流ユニットを取り外して、ストレーナーに付いたゴミを水で洗い流した後、元の位置に取付けます。

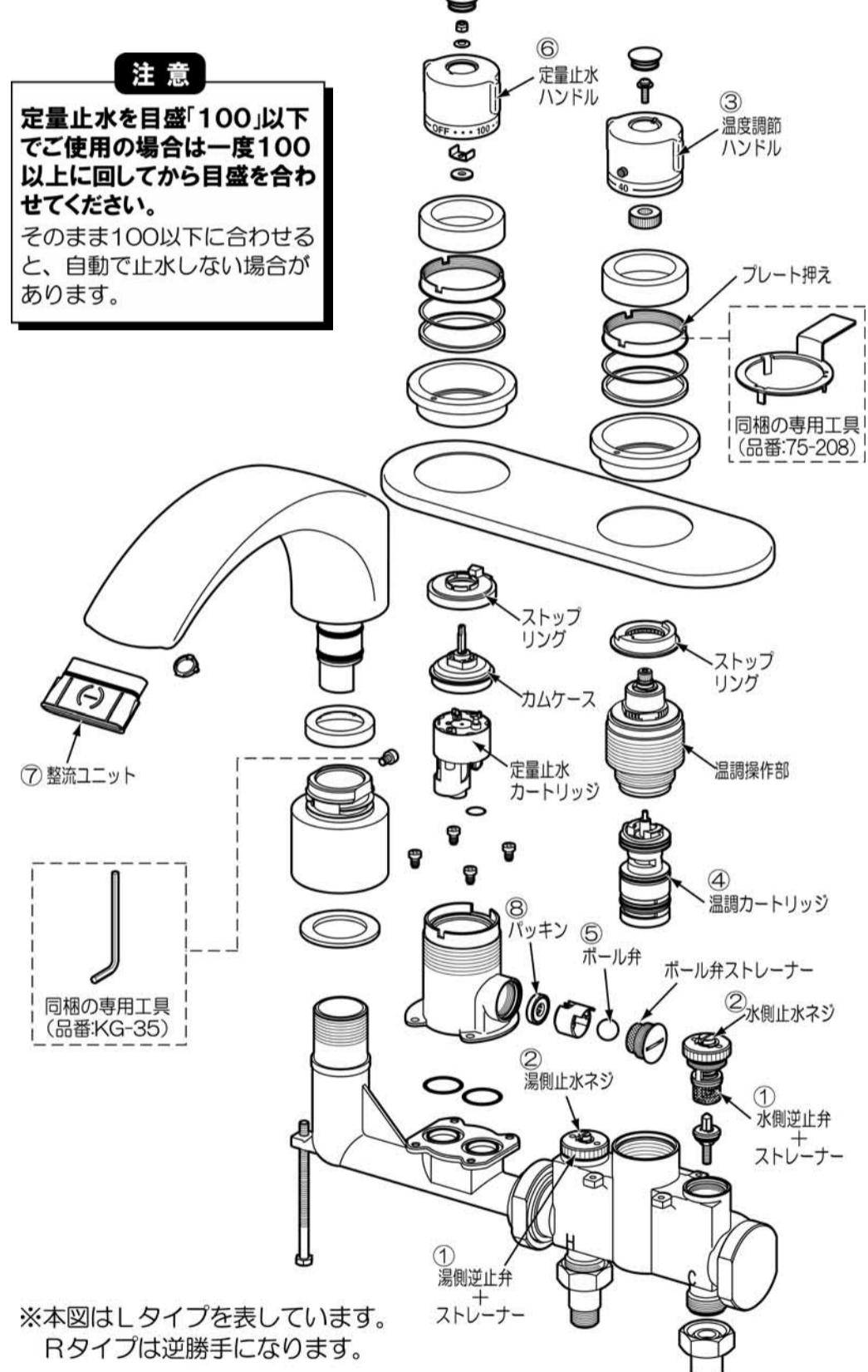


引渡前の確認

お客様に引き渡すまえに以下のような現象がないか確認してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置
流量が少ない	圧力は十分か？		「使用条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか？		抵抗となる障害物を取り除く。
	ストレーナーのゴミ詰まりはないか？	①(湯側と水側)	ゴミ等を水で洗い流す。
	整流ユニットのゴミ詰まりはないか？	⑦	ゴミ等を水で洗い流す。
水が止まらない	止水栓は十分開いているか？	②(湯側と水側)	止水ネジを十分開らぐ。
	ゴミかみはないか？	⑤ ⑧	ゴミ等を水で洗い流す。
	キズはないか？	⑤ ⑧	キズがあれば部品を交換する。
	湯水の逆流がある	①(湯側と水側)	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。
希望の温度が得られない	逆止弁は正常か？ (ゴミ、砂かみは？) (Oリングやシートにキズは？)	①(湯側と水側)	「使用条件」の項参照。
	圧力は十分か？		「使用条件」の項参照。
	ストレーナーのゴミ詰まりはないか？	①(湯側と水側)	ゴミ等を水で洗い流す。
	止水栓は十分開いているか？	②(湯側と水側)	止水ネジを十分開らぐ。
温度調節ハンドルの設定	温度調節ハンドルの設定は良いか？	③	「温度調節ハンドルの設定」の項参照。
	温調カートリッジは働いているか？	④	「機能検査」の項参照。
自動止水が働かない	ハンドルの回転を妨げていないか？	⑥	障害物を取り除く。

※点検箇所は下図を参照してください。



※本図はLタイプを表しています。
Rタイプは逆勝手になります。

機能検査

- 定量止水ハンドル⑥を「ON」の位置に合わせる。
- 温度調節ハンドル③を「40」の位置に合わせる。
- 水側止水ネジ②のみを閉める。
 - ※このとき吐出がほとんど停止すれば機能は正常。
 - ※吐出が止まらずそのままあれば温調カートリッジの故障ですから取替えが必要です。
- 湯側止水ネジ②のみを閉める。
 - ※このとき吐出がほとんど停止すれば機能は正常。
 - ※吐出が止まらずそのままあれば温調カートリッジの故障ですから取替えが必要です。